

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 杵築 開催概要

[開催日：令和3年10月18日(月)]

[学校訪問] 杵築市立杵築中学校

[訪問者] 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
杵築市教育委員会（清末教育長、教育委員、課長 他）

(1) 学校の概要説明

杵築市立杵築中学校では、「自立心」と「コミュニケーション力」を学校として育成を目指す資質・能力とし、「主体的学び 協働的学びで成長し輝く生徒の育成」に取り組んでいます。今年度、新校舎・体育館・プール等の全てが完成したことから、コロナウイルス感染防止対策を踏まえた上で、8月に完成記念行事を行いました。

また、令和元年度には大分県防災教育モデル実践事業指定校として、家庭・地域と連携した防災意識を高める実践の成果を広く県内に発信し、現在も地域に密着した防災教育を「総合的な学習の時間」を通じて推進しています。

(2) 授業参観

新大分スタンダードを柱として「論理的思考力・判断力・表現力を育成する『言語活動』を位置づけた授業づくり」をテーマに授業改善を推進しています。学校独自の「授業づくりシート」をツールとして活用し、単元計画を踏まえた授業構想ができるよう工夫をしています。1学期の取組を踏まえて、思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指し、重点を置く基礎・基本事項などを「重要」と示し、生徒が自分の力で考えを持ったり、まとめたりする際の手助けとなるよう、全教員が同一歩調で取り組んでいます。

また、タブレット端末を自己の思考を整理するツールとして活用したり、話し合い活動（交流の場）で活用したりする姿、学級全員が一体となって合唱練習に取り組んだりする姿が見られました。

(3) 意見交換会

生徒の書字が男女問わずきれいで整っている。指導者の言葉遣いが標準語でなされ生徒の言葉もとてもきれいである。板書も整理され、生徒に目的を持たせて学ばせていることがうかがえる。今の取組が必ず学力向上につながるであろう。

校内各種委員会の曜日・時間の指定がなされ、関係教職員が参加できるように日課表を組んでいる。また教科部会についても、月1回水曜日にテーマを設定して実施している。「中学校学力向上対策3つの提言」の大事なところをしっかりと押さえているので、今後、徹底していくことでさらなる向上が期待できる。



家庭・地域との協働で「一人でもできる、ひとつにもなれる杵中生」へ
(杵築中 佐々木校長)



タブレットで考えを整理し交流



全体で合唱をあわせる練習に熱が入る

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上

- (1)「学校評価の4点セット」を活用した学校マネジメントの深化
- (2)「自立した学習者の育成」に向けた杵築市の取組

【出席者】「学校訪問」訪問者及び杵築市立小・中学校長（小学校3校、中学校2校）

意見交換会では、市全体の取組状況の説明の後、各学校長から自校の成果と課題について紹介いただきながら意見交換を行いました。

(1)「学校評価の4点セット」を活用した学校マネジメントの深化

- ▶平成29年度より独自の様式を活用している。各種プランを1枚に統合することで組織及び目標達成マネジメントの充実をねらった。その後、焦点化を図り、より機能的な形へと改善し、令和2年度より資質・能力ベースの様式へと移行。マネジメントツールの整理・統合・焦点化が学校の主体性の推進につながり、学校独自の様式の創意工夫も行われている。
- ▶「4点セット」を見れば年間の取組内容を明確に捉えることができる。また、全教職員が共通理解することで学校運営への参画意識が高まり、モチベーションを高めていくことができている。
- ▶挨拶運動の取組は多くの学校で行われており、児童生徒主体で取組を工夫したり、学校運営協議会で話題になったりしている。また、杵築高校生が実践している「ワンストップ挨拶」を見る中学生にとっては良い手本となっている。
- ▶組織化と見える化で学校・家庭・地域が協働することが重要。学力向上会議では杵築高校の校長にも参加してもらい、高校や社会に出て必要な力について共有することができている。挨拶運動では毎回、地域の方々の協力があり、子どもを見守っていこうとする機運が高まっている。小中高連携の中で子どもたちを見ていきたい。



引き続き県と同一歩調での取組の推進をお願いしたい
(岡本県教育長)



「人が育ち輝くまちづくり」へ
(清末市教育長)

(2)「自立した学習者の育成」に向けた杵築市の取組について

- ▶学習方法や意義が分からず、意欲をなくしていく子どもに対して、少しずつできる喜び、達成感を味わわせていくことが必要。学習方法を教わってできるようになることもある。方法が分からない児童生徒を想定し、丁寧に伝えていくことも大事ではないか。
- ▶教師主導から脱却するために、児童の主体的な学びを支える伴奏的な立ち位置で授業を組み立てることが大切。児童をアクティブラーナーにするために、まずは教師がアクティブラーナーにならないといけない。
- ▶基礎学力を定着させるための取組として、「同じ問題3回繰り返しシステム」と、生徒同士が得意分野で教え合う「マイティーチャー・マイスチューデントシステム」での徹底が有効に働いている。

【主な意見】

- ▶学校の外から見て、子どもたちの姿は確実に向上している。杵築市や学校現場の教職員の力で細かな指導がなされている。
- ▶アクティブラーナーを育てていく上で基礎学力の定着が前提となる。子どもの苦手とする部分を子どもの立場に立って分析できるとよい。その上で、家庭との連携を進めていくための実態把握をし、必要などころへの支援を考えていくことが肝要。

【意見交換を終えて(岡本県教育長から)】

皆さんから貴重なご意見をいただいたことに対して感謝申し上げます。新校舎の杵築中学校では、「見える化」と「組織化」の取組が参考になりました。ワンストップ運動が影響を与えているといった、杵築高校が先頭に立って、小中高連携している様子を聞いてうれしく思いました。大分県教育委員会が目指している方向と同じ方向で努力いただいているので、今後も共に力を合わせながら一歩でも向上できればと思っています。